

green maman

調査団体名	: green maman	団体代表者名	: 宇角佳笑、中根桂子、小松昌世、小黒敦子
設立年	: 2007年	対応してくれた人の名前	: 宇角佳笑、中根桂子、小松昌世、小黒敦子
団体URL	: http://ameblo.jp/green-mamann/		
活動拠点	: 愛知県豊田市	調査員	: 後藤伸也、蜂須賀 功
取材日	: 2013年11月26日	レポート作成者	: 蜂須賀 功

活動内容

green mamanは、朝市を毎月第4火曜日、豊田市寺部町の守綱寺で行っている。また、スーパーやまのぶ梅坪店「ママンズ キッチン ことり」では、惣菜や弁当、おやつなどを販売し、「green mamanのお気に入り」では、フェアトレード商品や朝市での商品を販売している。2014年1月からは、毎月第2木曜日に、タキソウ家具本店での朝市も開催している。

子育て中の主婦、宇角さん、中根さん、小松さんおよび小黒さんの4人が、田中優さん(反原発や平和活動を続ける文筆家)の講演を聞き、「私たちにも何かできるのではないか」という思いから、green mamanは始まった。「地域で循環」をもとに、エネルギー、人、お金、モノが地域でうまく回るような仕組み、持続可能な社会をつくろうと、まず、農業すなわち「食」からスタートする。

朝市を企画運営し、地域で野菜を作っている人(農業生産者)に出店してもらい、地域の人に野菜を売ろうとしたが、当時豊田市内では産地直売が中学校区単位で進んでおり、なかなかgreen mamanの野菜は売れなかった。そこで、ただ売るのでなく、商品の情報(作っている場所、人)や料理方法、「買い物は投票」という考えなどを併せて紹介するうちに、徐々に浸透していき、現在では野菜、米、パン、ジャムなどの食料品に加え、雑貨なども朝市で出店されている。

キャッチフレーズ

まちの中の結

会のモットー(何を大切にしているか)

朝市では、地域の良心的な農業生産者と消費者をつなげ、農家の思い、農作物の価値を消費者に伝えていきたい。また、環境・平和・衣・食・住・健康について、朝市、やまのぶでの「ことり」「green mamanのお気に入り」などの場を通して、気になったこと、興味を持ったことを学び合い、行動を起こしたり、発信していきたい。

設立から現在に至るまでに変化したこと

活動を続けるうちに、農業生産者と消費者に交流(つながり)ができ、ただ「買って終わり」だけでなく、作り手である農業生産者も、より良いものを作るきっかけになっている。

さらには、green maman、生産者と消費者、他団体との交流が深まり、現在ではメーリングリストでさまざまな情報を交換し合っている。メーリングリストも500人を超え、特に子育てのことでは、皆が助け合う感じになり、現代版「結(ゆい)」が育ってきた。

注:メーリングリストは、主に、豊田市近郊に住む子育て中のママが、子育てに役立つ情報を伝え合うツールとして9年ほど前にできたもので、登録する人たちでつくり上げられている。green mamanが管理するものではない。

連携している団体・専門家・自治体など

- ・スーパーやまのぶ(おかずや商品の販売など)
- ・守綱寺、タキソウ家具(朝市の場所の提供など)
- ・おいでん・さんそんセンター、千年委員会(他団体との交流)

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

定期的な朝市の他に、地元の大豆を使った味噌づくりや、徳山ダムの写真家・大西さん、名古屋大学准教授の高野先生を招いた環境講演会など、さまざまなイベントも行ってきた。

現在直面している課題

朝市を企画運営する際に、どうしても費用が掛かる。以前は、自分で費用を持ち出していたが、最近は農業生産者から出店料をもらい、最低限の経費を賅っている。

今後やってみたいこと

現在、自分たちでも田んぼを借りて米を作ることになった。自分で作るにより、米を作ることがいかに大変か、生産者の苦勞がわかり、価値観も変わってきた。また、米作りを通じ、いろいろな人との交流もでき、充実している。今、green mamanのメンバーで、ママンの理解者でもある人に指導していただきながら米を作っている。今後は、私たちと同じように、指導してくれる方と市街の米作りに興味がある家族でグループをつくり、田植えや稲刈りだけのイベントではない“田んぼでお米を育てるグループ”がいくつかできていくといいなと考えている。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

里山の人で、米作りの指導をしていただける人(参加される家族をイベントの参加者でなく、お米と一緒に作る仲間として作業していただける人)。

チームオリジナルの質問

<質問内容>山間地域の振興で重要なことは何か。

<答え>私たちの朝市での活動のように、やはり林業においても「出口」、すなわち木を消費する仕組みが大切ではないか。木(材木)の需要があり、業(なりわい)として継続的に成り立つ仕組みが必要である。また、地域間の連携ももっとすべきである。例えば、豊田市の旭地区はかなり先進的にさまざまなことに取り組んでいるので、設楽町など人づくりや空き家対策の面で一緒に何か進めればよいと思う。

その他、伝えたいこと

green mamanでの出会いをはじめ、現在ではさまざまな団体と交流し、多くの人と出会ってきた。「おひさまクラブ」という未就園児を対象としたグループやプレーパーク(冒険遊び場)の人と関わり、子育てに大変役に立っている。ここでは、子育てをみんなで助け合い、例えば、不要になった子ども服を提供したり、子どもの面倒を一時的に他のお母さんに見てもらったりなど、「子どもは地域で育てる」という感覚ができてくる。ここでは、子育ては大変だから2人目を産むのはやめようと思うお母さんはあまりいないのではないかと考えている。すごく居心地が良い場所である。まさに「子育ての好循環」が生まれており、当初始めた「地域で循環」から循環の輪が大きく発展しつつある。

写真



green mamanのメンバー



朝市の様子(守綱寺にて)